



あの人

この人



三豊市詫間町の粟島で、小型無人機ドローンを活用した遠隔診療の実証実験に取り組む香川大学瀬戸内圏研究センター特任教授、同大名誉教授の原量宏さん（76）＝高松市屋島中町＝。遠隔医療のパイオニアとして知られ、日本遠隔医療学会名誉会長を務める。

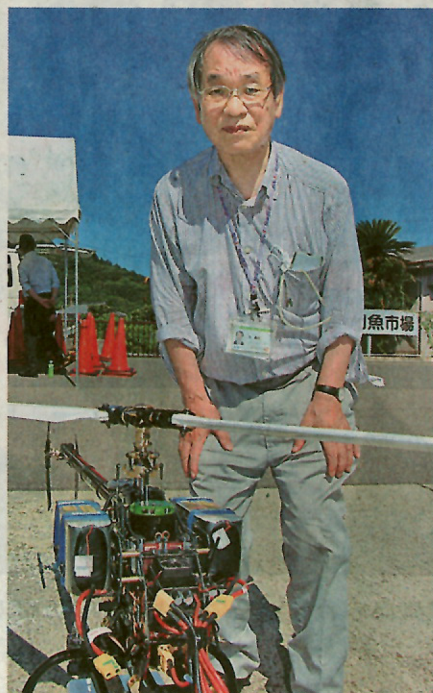
東京都出身で東大医学部卒の産科医。東大から、開学した香川医科大学（現香川大医学部）に招聘された。当時、香川は周産期死亡率が全国ワーストに近かった。胎児の心拍数などの妊婦データを基幹病院と共有する周産期の電子カルテのネットワークを構築。約30

遠隔診療整備へ力注ぐ

年かけて周産期死亡率は全国ベストに改善し、「香川は出産で最も恵まれた県になった」と強調する。

周産期のネットワークを全ての診療科に広げたのが、2003年から全国に先駆けて運用を始めた「かがわ遠隔医療ネットワーク（K-MIX）^{プラス}」、現在の「K-MIX+」。「理論的にいいと思ったらとことんやる」という信念の強さが全国のモデルを築いた。数々の栄誉の中でも「園遊会に招かれたことは光栄だった」と頬を緩める。

ライフワークの遠隔医療の知見を基に、次は離島の医療体制整備に力を注ぐ。



「理論的にいいと思ったらとことんやる」と語る原さん